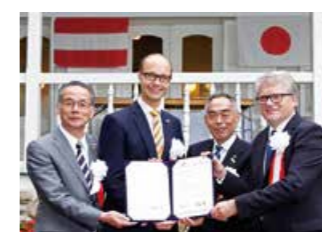




10年のときを経て

今、橋かかる

調印に向けて互いの国家を斉唱する両市長。演奏は西那須野中学校の吹奏楽部が担った



調印式には関係者を含め約80人が参列。両市長が協定書にサインすると、会場からは拍手が起こった

那須塩原×リンツ 姉妹都市提携調印式

旧青木家那須別邸(通称:青木邸)で6月13日、本市とオーストリア中央部に位置するリンツ市との姉妹都市提携調印式が行われた。きっかけは、11年前に始まった中学生の海外交流事業。多くの子ども思いや夢を原動力に、年々深めてきた都市交流の輪。約10年のときを経て、両都市に姉妹都市調印の橋がかかった。

相手を理解し協力し合うことが、互いの幸せにつながるのです——



リンツ・ルーガー市長

オーストリアと日本による姉妹都市提携は比較的珍しいことです。国内では、第2次世界大戦以降、欧州諸国と関係を築くことに力を注ぎ、その結果として平和を維持してきました。しかし、グローバル化と言われる現代、これからは視野を広げる時。今回の姉妹都市提携の歴史は、「青木家」という個人的な関係から始まっており、珍しくユニークなもの。周蔵公もこの交流をお喜びのことでしょう。2年前、私の2人の息子もこの交流に参加し、那須塩原で素晴らしい思い出をたくさん作って帰ってきました。こうして続く交流も、経済・産業という新たなステップに進んでいます。那須塩原

これまでの交流が実った結果。他分野にも広げていきたい——



那須塩原・君島市長

かねてから交流を深めてきたリンツ市との姉妹都市提携調印式を、ここ青木邸で実現できるのはこの上なく喜ばしいことです。ここ青木邸は、リンツと那須塩原の交流の歴史を振り返る上で、運命の始まりともいえる重要な場所。明治時代、ドイツ公使や外務大臣などを務めた青木周蔵氏は、市内に青木農場を開いた後この別邸を建設しました。それから時を経て、平成16年に、リンツ市在住のニクラス・サルム伯爵(周蔵氏の子孫)が市内を来訪したことをきっかけに、中学生の海外交流が始まりました。こうした相互間の交流を通して、文化や生活様式の違

とリンツの間には、数多くの類似点があります。その一つは、ともに強い産業基盤を有していること。この姉妹都市提携は、経済協力と都市開発にまつわる相互交流に取り組むためのいい土台を提供してくれることでしょう。私は将来的に、学校から市民全体に交流の幅を広げたいと思っています。それは、グローバル化が進む世界で互いに理解・協力し合うためには、人同士の文化的・歴史的・技術的な交流が必要だと考えるからです。互いの文化の特異性を学ぶことにも大きな意味があります。数千年前の哲学者アリストテレスは「人は、生きるために都市に集まり、そして、幸せな人生を送るためにそこに居続ける」と言いました。この言葉のとおり、市民が幸せな人生を送れるよう努力することが、今回の調印の目的の一つ。これから両都市が関係を深め、相互協力することで共に繁栄していくことと確信しています。

中学生海外交流事業って何?

毎年、中学生を互いの都市に派遣し、交流を深める事業。平成17年からリンツ市への派遣が始まり、21年からはリンツからの生徒を受け入れている。

- 5月 リンツ→那須塩原(受入)
- 10月 那須塩原→リンツ(派遣)



平成27年度からは産業の交流も始まっている

を肌で感じながら互いに理解を深め、そして自分の国についても見直す貴重な機会となっています。今回の姉妹都市提携を新たな出発点とし、これまでの交流によって築かれた信頼関係のもと、さまざまな分野での交流を一歩ずつ進めていきたいと思っています。